

6 地域の雇用・産業の状況

(1) 就業状況

1995年(平成7年)国勢調査では、高蔵寺ニュータウン内の就業者は約25,100人であり、就業先は、春日井市内(自宅以外)が約37%(約9,200人)、春日井市外かつ愛知県内が約56%(約14,100人)であった。

2015年(平成27年)国勢調査では、高蔵寺ニュータウン内の就業者は約18,700人であり、就業先は、春日井市内(自宅以外)が約43%(約8,100人)、春日井市外かつ愛知県内が約45%(約8,500人)であった。

また、2020年(令和2年)に実施した高蔵寺ニュータウンに関するアンケート調査結果(以下「2020年(令和2年)調査」という。)では、勤務地等として名古屋市、小牧市に次いで、瀬戸市、豊田市などの愛知環状鉄道沿線の都市があった。

(2) ニュータウン内及び近隣の工業立地

高蔵寺ニュータウン内では、北部に位置するサービスインダストリー地区があり、環境負荷が比較的小さい工場等の企業が立地している。

また、高蔵寺ニュータウン周辺では、大規模な工業団地である神屋工業団地、明知工業団地及び明知東工業団地があり、春日井インターチェンジ周辺では、近年、本市が大規模な企業誘致を進めているところである。

高蔵寺ニュータウンの近隣では、製造業が盛んな豊田市内の企業に関連する多数の工場等が立地しており、愛知環状鉄道沿線に隣接して、豊田市鉄工団地等の工業団地、工場等が立地している。

(3) 近隣の農業

高蔵寺ニュータウン内に農地は無いが、周辺地区である廻間町や玉野町等に130ha程の農地が存在する。

個人で野菜や花の栽培ができる市民農園は、高蔵寺ニュータウンの近隣である白山町や出川町に立地しており、市民の利用ニーズが高く空きがない状況が続いている。

また、西尾町には、収穫体験等を通じて幅広い世代が農に親しむことができる施設「春日井市ふれあい農業公園(愛称:あい農パーク春日井)」が立地している。

【課題】

- ・職住近接の観点から、雇用の確保・促進をいかに図るか。
- ・愛知環状鉄道沿線の事業所就業者の居住をいかに促進するか。
- ・市民農園ニーズにあったライフスタイルをいかに提供するか。

7 公共公益サービスの状況

(1) コミュニティ活動

コミュニティ活動を支えるサービスとして、東部市民センター(公民館)、グループふじとう(貸し会議室)があり、東部市民センターは利用率が高いが、グループふじとうは利用率が低い。その他の地域の集会施設は、2015年(平成27年)と比較して1か所増加し40か所あり、生涯学習、サロンなど、様々な用途で使用されており、利用率は高い。

都市再生機構賃貸住宅内では、地域医療福祉拠点化の取組により、岩成台及び高森台に「連携コミュニティスペース」が設置され、多世代が気軽に立ち寄れる空間として団地自治会が主体となり子育て支援、高齢者のふれあいなどのコミュニティ活動が行われている。

(2) 教育・子育て支援

高等学校が1校、中学校が4校、小学校が8校、幼稚園が5園、保育園が6園、子どもの家(学童保育)が6施設、民間児童クラブが2施設あり、小規模保育園が近年2園開園し、公立サービスを民間サービスが補完している。センター地区には、東部子育てセンターがあり、高蔵寺ニュータウン外からの利用者も多い。

このほか、高蔵寺駅周辺を中心に学習塾が15か所ある。

(3) 医療

当初の計画により医者村が設けられ、多くの診療所が立地しているが、医師の高齢化等により、閉院した診療所があり、かかりつけ医の機能が低下している。その一方で、近年、新たな診療所が開院した地域もある。また、高蔵寺ニュータウン周辺には、比較的規模の大きな総合病院が2つある。自らバスを運行する病院もあり、高蔵寺ニュータウンの利用者を支えている。

(4) 高齢者等への福祉

日常生活圏域及び*地域包括支援センターの再編が行われ、地域包括ケアシステムが確立した。

居住系の福祉施設の立地状況は、介護職員の人材不足により施設整備が計画どおりに進んでいない。

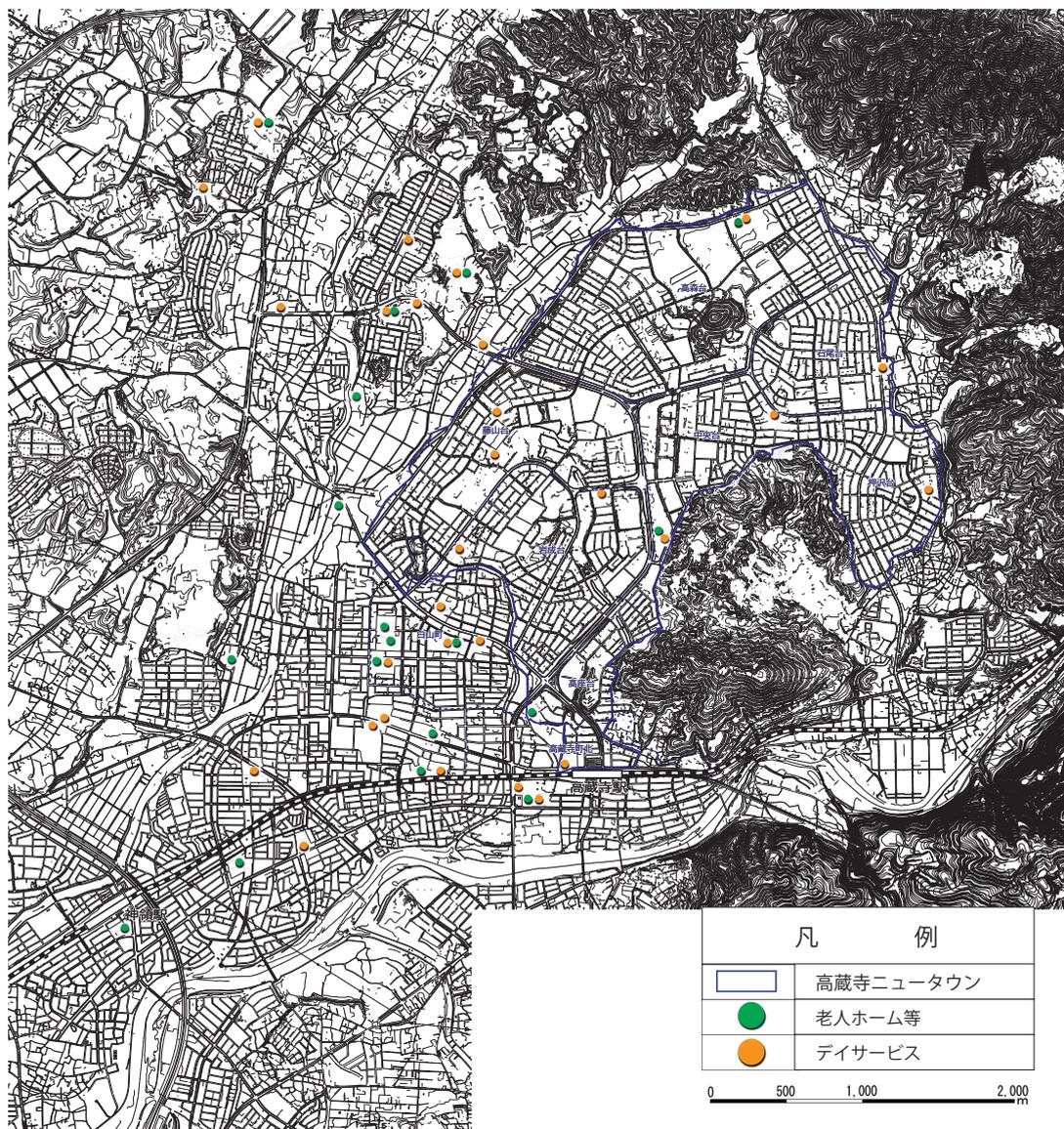
居宅系の福祉施設は、各地域に一定数は立地しているが、介護職員の人材不足により、新規の立地があまり進んでいない。

各地域では、地域包括支援センターや地域福祉コーディネーターにより、住民主体の介護予防・生活支援サービス事業となる高齢者サロン等高齢者の通いの場の創出を推進しており、利用件数は増加している。

*地域包括支援センター 地域住民の心身の健康保持と生活安定のため、看護師や保健師、社会福祉士、主任ケアマネージャーが一体となり、総合相談や予防事業を行う機関のこと。

都市再生機構賃貸住宅内では、生活支援アドバイザーが設置され、団地居住者の高齢者の相談、見守り等の取組を行っている。

図13 社会福祉施設の立地状況



(出典：厚生労働省介護サービス情報公表システム)

【課題】

- ・市民の活発な活動を支えるスペースをいかに確保するか。
- ・子育て世帯のニーズにあった施設サービスをいかに充実させるか。
- ・福祉・医療施設を身近な場所にいかに立地させるか。

8 社会基盤施設の状況

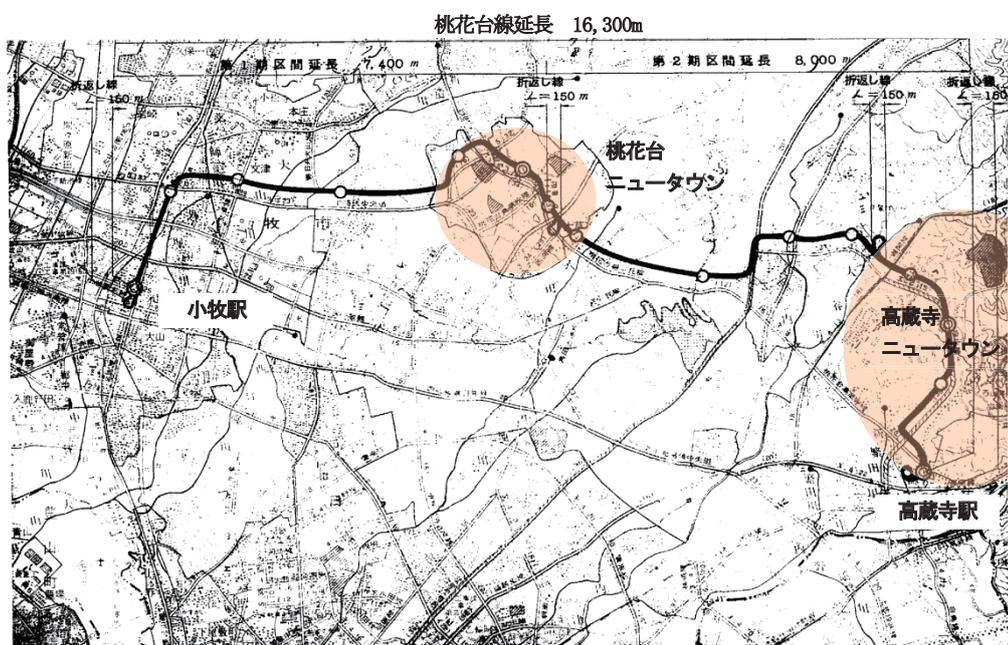
(1) 道路・駅前広場

幅員 36mの幹線道路とともに、18m以上の補助幹線道路が高蔵寺ニュータウンの骨格を形成しており、大きく育った街路樹によって緑豊かな公共空間が育まれている。一方、区画道路では歩道の確保、バリアフリー化の面で充分でないものも多い。

JR高蔵寺駅北口広場は、約 11,000 m²の面積があり、土地利用には比較的余裕がある。

過去には桃花台ニュータウンから新交通システム(2006年(平成18年)に廃止となったピーチライナー)が高蔵寺ニュータウン内を通過してJR高蔵寺駅まで乗り入れる計画があり、これらの比較的余裕のある道路空間は新交通システムの乗り入れに対応することを想定したものである。

図14 桃花台線(仮称)建設計画会議の報告書(1976年3月25日)に示された路線計画図



(出典：桃花台線建設誌 愛知県 1992年3月)

(2) 公園

一人あたりの公園緑地の面積は14.4 m²であり、市平均の11.4 m²を上回っており、公園の整備水準は高い。一方、あまり利用がされていない公園もあり、居住者のニーズに合っていないといった指摘がある。

都市再生機構により高森台団地や岩成台団地等で、児童遊園や*プレイロットの整備、歩行者路の改修等団地屋外環境の整備が進められている。

プレイロット 団地やマンションの敷地の一角に設けられた、砂場やブランコ、滑り台等の遊具が設置されている比較的狭い遊び場のこと。

(3) インフラの老朽化

当初建設されたインフラは供用開始から 50 年以上経過しており、道路や下水道等で老朽化が目立ってきている。一斉に老朽化を迎える時期に来ており、修繕、更新工事等を計画的に実施している状況である。

【課題】

- ・計画された良好な既存資産(ストック)をいかに次世代につなげるか。
- ・道路や公園の豊富なスペースの有効利用をいかに図るか。
- ・老朽化しつつある公共インフラの更新をいかに効率的に行うか。

9 自治組織・市民団体の状況

(1) 自治組織の状況

2019 年度(令和元年度)の自治会・町内会への加入率は 83.9%で 2014 年度(平成 26 年度)の加入率 88.9%より減少しているものの、市平均の 59.6%を大きく上回っている。このほか、地区社会福祉協議会、地区推進協議会の活動は比較的活発である。一方、老人クラブへの加入はあまり進んでいない。

また、各地区の特色として、小学校の余裕教室を活用し、複数の自治組織が連携して活動する中央台や東高森台地区、自宅を開放したまち歩きのお祭りや集会所での手作り居酒屋の開催等のイベントを展開する押沢台地区、地域の人が講師となり中高年層が楽しく学びながら、仲間づくりや健康づくりを図れる地域交流の場を設けている石尾台地区、地域の人による歌や踊り、手芸作品の発表の場となる芸能大会を開催する岩成台西地区を始めとして、住民による活動が活発な地区がある一方で、組織化が進まず、活動が活発でない地区もある。

2014 年までは、高蔵寺ニュータウン全体での町内会・自治会の連絡組織があったが、活動実態が乏しいことから解散した。

(2) 市民団体の状況

高蔵寺ニュータウンに活動拠点を置き、市民活動支援センターに登録している市民団体は 2015 年(平成 27 年)と比較して6団体増加し 24 団体ある。また、東部ほととステーションで活動している市民団体は 10 団体ある。福祉関係の活動を行う団体が多いことが特徴である。市民団体と自治組織を結ぶ横断的な組織は形成されていない。

【課題】

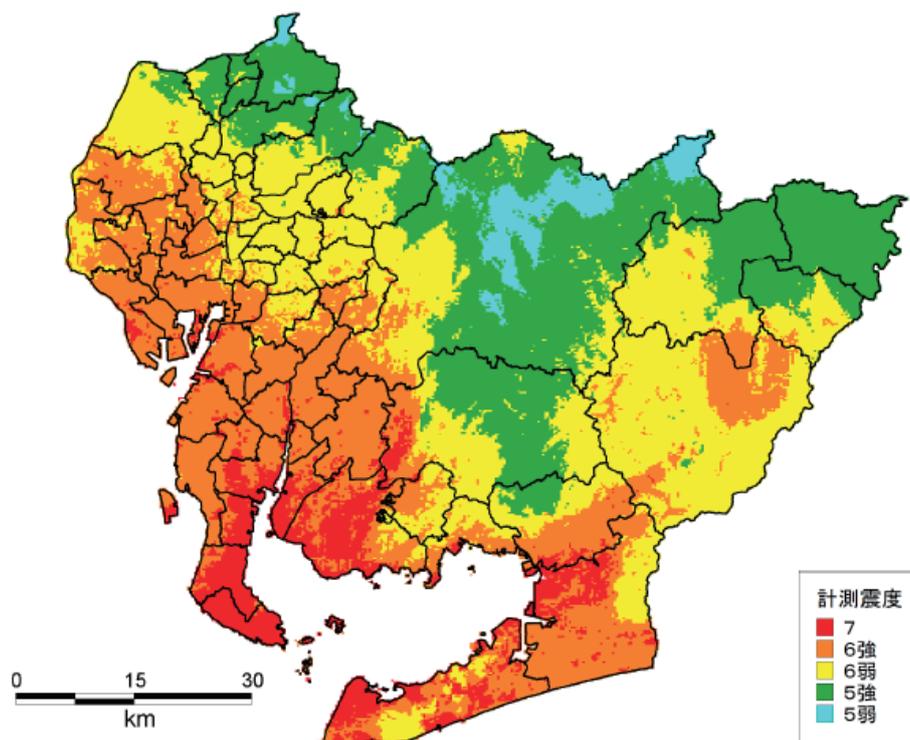
- ・自治組織及び市民団体の活動や連携をいかに支援するか。
- ・自治組織と市民団体との連携をいかに支援するか。

10 防災・防犯の状況

(1) 災害の危険性

高蔵寺ニュータウンがあるエリアは、愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等の被害想定では、最大震度、液状化危険度の、いずれの面でも市内他地域と比べて低い。また、庄内川の氾濫による浸水危険性も低い。

図15 愛知県全域の最大深度分布



震度分布 「理論上最大想定モデル」による想定（陸側ケース）

（出典：愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果）

(2) 犯罪の発生状況

2019年（令和元年）における刑法犯の人口千人あたりの犯罪発生件数は、2014年（平成26年）の6.89件から減少し3.36件であり、市平均の5.60件を下回っている。

また、町内会や市民活動団体等では「防犯パトロール」等の防犯に関する取り組みが実施されている。

【課題】

- ・高蔵寺ニュータウンの災害に対する地理的状況をいかにアピールするか。
- ・高蔵寺ニュータウンの治安の状況をいかにアピールするか。

11 住民の意識

2020年(令和2年)調査では、住環境について「まちの活気」、「高齢者や障がい者のための福祉施設の充実」、「徒歩や自転車での行動のしやすさ」については、満足度が低く、一方で、重要度が高くなっており、満足度と重要度で差がみられる。

また、10年後も住みたいと思うために、特に充実すべきと思う項目は、「高齢化の進行に伴う福祉サービスの充実」、「子育てしやすい環境の充実」、「家からバス停や店舗への移動手段の確保」、「公共交通の維持・向上」が高くなっている。

【課題】

- ・豊かな既存資産(ストック)や良好な住環境をいかに保全するか。
- ・少子高齢化、移動の困難さといった重要課題にいかに対応するか。
- ・若い世代の流入促進と良好な住宅環境の確保をいかに両立させるか。